

2. 阿久川上流の整備計画区間への追加について

(1) 対象区間の概要

a. 位置

① 阿久川の概要

- ・ 面積=約20km²
- ・ 流路延長=約13km
- ・ 指定延長=約7.6km

② 追加区間

- ・ 獅子吼橋
～
市兵衛橋
(約1.8km)



ここからは、2. 阿久川上流の河川整備計画区間への追加についてです。

千葉県では、概ね1時間あたり50mm程度の降雨に対応した河川整備を推進しております。整備の優先度に関しては、圏域毎のバランスや過去の浸水状況、今後想定される開発状況、地域の声などを総合的に勘案して決定します。

(一宮川水系流域の場合、概ね1時間あたり50mm程度の降雨は、確率規模にするとおおよそ1/10)

今回整備計画区間への追加を提案している阿久川の獅子吼橋上流から市兵衛橋までの約1.8kmの区間は、上下流が整備され当該区間のみが未整備となっており流下能力が1/2～1/3程度と低く、浸水被害が多発しております。

このため圏央道の茂原北インターチェンジ（平成24年度開通予定）にアクセスする幹線市道が度々浸水の危険に見舞われるとともに、付近には小学校及び保育園等の通学路も複数あることから、当該区間を整備計画区間に追加したいと考えています。

2. 阿久川上流の整備計画区間への追加について

(1) 対象区間の概要

b. 河道の整備状況



上記の写真は今回の審議区間の現況です。

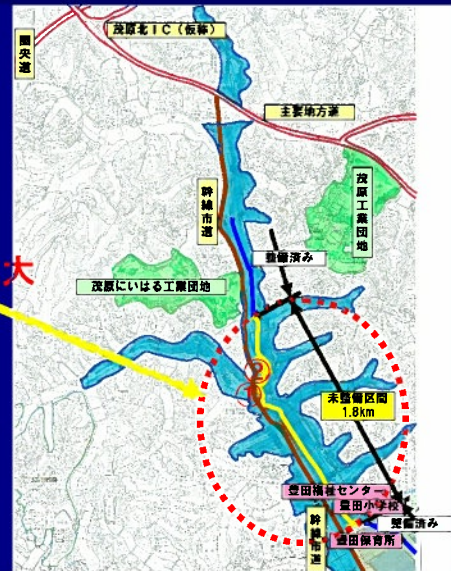
2. 阿久川上流の整備計画区間への追加について

(1) 対象区間の概要

c. 過去の浸水状況



平成8年9月22日洪水における阿久川上流の
浸水状況



阿久川上流における過去の浸水状況としては、平成8年9月22日の大雨が挙げられ、幹線道路や家屋の浸水などの被害が生じました。

その後、平成16年にも被害が発生し、依然として地域住民からの浸水対策に対する要望が出ています。

この幹線道路は、圏央道（東金～茂原間：平成24年度開通目標）へのアクセス道路としての重要性が高く、今後、沿道の利用や開発が進む可能性があります。

2. 阿久川上流の整備計画区間への追加について

(2) 今後の対応

【水害に強い県土づくりのあり方（一宮川に対しての提言）】

1. 流域では都市化による流出量の増加が水害の大きな原因となっている。また、今後さらに都市化の進展が見込まれるために、市街地の流出抑制対策や低地部の浸水被害対策を行う必要がある。
2. 水田における排水路整備の計画規模を超える洪水については、水田貯留等を含む流出抑制対策を行う必要がある。
3. 水防計画の策定に当たっては、住民の参加を得て地域の実情にそくした計画とする。なお、水防工法等を含めた水防の近代化や、情報伝達システムの充実に取り組む必要がある。



今後の対応として、新たな開発行為に対する調整池の設置等を指導するとともに、貯留効果の高い水田や畑等の保全が流出抑制に有効であることから様々な機会や手段を通じて、地域住民への協力を要請していきます。

また、洪水を安全に流下させるための河道整備も必要であることから、上下流との治水安全度のバランスをとりながら、コスト縮減の観点から既存の護岸の有効利用等に努めた当該区間の河川整備の計画を策定する予定でいます。